

公園の美化に40人の日本人



「役立つこととしたい」思い募り

学生、駐在員、主婦たち

ニューヨーク在住者を中心とした日本人のボランティアグループが4日、同市内の公園を清掃する「スプリング・クリーンアップ・デー」の活動に参加し、公園の美化に取り組んだ。同活動は、非営利のボランティア・コーディネーター

団体「ニューヨーク・ケアーズ」の主催で年1回行われ、市内40か所で毎年約3500人が草取り、ゴミ拾い、ベンキ塗り、植樹など、夏に向けて公園をきれいにするが、今年は約40人の日本人がグループで参加。ブルックリン区南部のマリンパーク内レクリエーション・エリアの清掃を割り当てられ、ベンチやフェンスのベンキ塗り、肥料まきなどをした。

ニューヨーク・ケアーズの活動は個人でも登録できるが、日野紀子さん(34)は、「ほかにボランティア

にはあるかチャンスがない、どうやって参加していいかわからないという人が意外と多いのでは」という日野さんもその一人だった。8年前、留学でニューヨークに来た時、音楽ビデオや映画で見たあこがれのコニリア일랜드に行つてショックを受けた。「ビーチはゴミの山。拾い始めたら、最初は10代の女の子に『お金にもならないことをして』と笑われ、やるせない気持ちになったけど、あとから一人、一緒に拾ってくれる女性がいた」。それ以来、いつかみんな街をきれいにしたいという気持ちがあったが、日々の生活に追われ、8年たつた今、仲間の賛同を得てやつと実現した。

参加者は、駐在員、学生、主婦、旅行者などさまざま。新潟市役所の職員で、現在は留学派遣プログラムでニューヨークに滞在する水井久子さん(29)は、「米国のNPO(非営利組織)、NGO(民間活動団体)の勉強のために参加した。実際に体験して、コーディネーターの仕事や手配の仕方などがよく分かった」という。駐在員の赤熊信彦さん(29)は、「日本にいた時も、河川の掃除などボランティア経験があり、米国でもぜひ体験したかった」という。

米国では、昨年9月11日のテロ事件以来、ボランティア希望者が増加。ニューヨーク・ケアーズのコミュニティ・ジョン・ディレクター、ジョン・ライアンさんは「テロ以来、17%増加している。コミュニティに貢献したいという人々が増えているから」と説明する。同団体がコーディネーターする月約300のプログラムの中には、テロ犠牲者に対するものもある。参加者の一人で金融会社に勤める有保充さん(27)は、勤務先が世界貿易センタービルの目の前にあり、事件の悲惨さを身近に見た。それ以来、コミュニティへの奉仕活

動に関心を持つようになったと語る。日野さんは、「社会貢献をしたいと目ざしている日本人にボランティアのきっかけを作り、つなげることを私たちの目的」と、より多くの人々を集め、定期的な活動を目指している。連絡先は、NYC@Volunteer@earthlink.comまで。